



入院患者のリハビリテーション実施率

入院の退院患者の内、リハビリを実施した患者の割合です。

2013年以降70%を超えておりましたが、2017年は69%に減少しました。

＜疾患とリハビリテーション実施＞

2017年のリハ実施患者とリハ未実施患者の傷病分布をみると、未実施で最も多い疾患は、内分泌系疾患、続いて呼吸器系疾患、消化器系疾患となっています。

内分泌系疾患と消化器系疾患の主な入院は糖尿病指導と消化管出血となっており、リハビリ対象外疾患となった事が考えられます。

また、呼吸器系疾患については、2016

年以降在宅でのフォロー体制が整い、入院件数減少に加え、在院日数も減少しております。このため、短期間のリハ対象外入院患者であった可能性があります。

入院患者のリハビリテーション実施率

分子	内、リハビリを実施した患者
分母	入院期間4日以上以上の退院患者

表示：月平均%



	リハ実施	未実施
(A00-B99)感染症及び寄生虫	2.9%	3.7%
(C00-D48)新生物(悪性新生物)	4.7%	4.3%
(E00-E90)内分泌・栄養及び代謝疾患	5.4%	23.0%
(F00-F99)精神及び行動の障害	0.3%	0.6%
(G00-G99)神経系の疾患	4.2%	5.0%
(H60-H95)耳及び乳様突起の疾患	0.0%	1.9%
(I00-I99)循環器系の疾患	16.6%	6.8%
(J00-J99)呼吸器系の疾患	22.4%	20.5%
(K00-K99)消化器系の疾患	8.9%	13.0%
(L00-L99)皮膚及び皮膚組織の疾患	1.8%	3.7%
(M00-M99)筋骨格系及び結合組織の疾患	5.5%	1.2%
(N00-N99)尿路性器系の疾患	8.6%	9.3%
(R00-R99)症状・兆候その他	1.3%	2.5%
(S00-T98)損傷・中毒及びその他の外因の影響	17.4%	4.3%

入院中リハビリの有無別の退院患者の在院日数をみたところ、リハビリ未実施の患者は1週間以内に退院している患者が56.4%、2週間以内に退院している患者では27.9%となっています。このことから、入院が長期化し、廃用症候群発生の可能性のある患者へは、的確にリハビリが実施されている事が考えられます。

在院日数	リハ実施	未実施
1週間以内	11.3%	56.4%
2週間以内	27.2%	27.9%
3週間以内	14.5%	9.1%
4週間以内	7.1%	3.0%
5週間以内	6.9%	1.2%
6週間以内	4.8%	0.6%
それ以上	28.2%	1.8%

<早期リハビリ介入に向けた取り組み>

入院患者へのリハビリには、入院早期に評価を行い、必要な患者へ早期のリハビリ介入をすることが、廃用症候群発生の防止につながります。

当院でのリハビリテーション実施患者への入院からリハビリ開始までの平均日数は、2016年以降毎年減少しており、早期介入が進んでいることがうかがえます。

今後との患者様で適切にリハビリを提供していくよう努めていきます。

